（別紙様式4）

令和8年11月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
履正社スポーツ専門学校北大阪校	平成10年4月1日	池尾　忠思	〒　563-0255 （住所）　箕面市森町西1-1-65 （電話）　072-733-2111
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人　履正社	大正11年4月1日	釜谷　等	〒　532-0024 （住所）　大阪府大阪市淀川区十三本町3-4-21 （電話）　06-6353-6592

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化・教養専門課程	競技スポーツ学科 野球コース	平成 7(1995)年度	－	平成30(2018)年度

学科又は専攻科の目的	野球活動を通じて、競技力の向上とともに、専門知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を備えた人材を育成する。野球実技、指導法、スポーツ生理・医学、コーチング及び大会運営等の実践的教育を通じ、競技現場や地域社会に貢献できる人材の養成を目的とする。
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	野球の技術習得と指導実践を中心に、スポーツ栄養学、スポーツケア、コーチング、トレーニング等を学ぶ。競技活動に加え、運営実習を通して大会運営・審判・記録等の実務も経験する。野球指導者や審判員等、競技に関係する資格の取得に必要な知識・技術を身につける。

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	82　単位	28 単位	8 単位	22 単位	単位	75 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数（学生実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
240 人	72 人	0 人	0 %	7 %

就職等の状況

■卒業者数 ©	32	人
■就職希望者数 (D)	20	人
■就職者数 €	20	人
■地元就職者数 (F)	6	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	30	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	63	%
■進学者数	12	人

■その他

その他：0人（就職20人、進学12人）

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

スポーツ関連企業・団体、野球・スポーツ指導に関する事業所、一般企業など。

当該学科又は専攻科のホームページURL

https://www.riseisha.ac.jp/course/baseball/

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

総単位数	82 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	20 単位
うち企業等と連携した演習の単位数	7 単位
うち必修単位数	82 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	6 単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	3 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	0 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	0 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	4 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	2 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		7 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	4 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

○教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和8年10月13日 18:00～（開催済み） 第2回　令和9年2月9日 18:00～（開催予定）
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年10月21日現在

名　前	所　　属	任期	種別
西脇　雅人	大阪工業大学／一般社団法人日本体力医学会	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	②
梅原　哲朗	株式会社 Toughrit	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
和田　竜三郎	株式会社 西宮ストークス	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
池尾　忠思	履正社スポーツ専門学校北大阪校　校長	内部委員	―
髙井　翔宇	履正社スポーツ専門学校北大阪校　スポーツ学科GM	内部委員	―
土井　幸大	履正社スポーツ専門学校北大阪校　スポーツ学科GM	内部委員	―
大江　信一郎	履正社国際医療スポーツ専門学校　校長補佐	内部委員	―
中村　風香	履正社スポーツ専門学校北大阪校　学科長	内部委員	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
コンディショニング Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	人体の構造や働きを理解し、その知識を元に基本的・応用的なアプローチ方法を学ぶ。スポーツトレーナーとして必要な身体的機能を回復・向上させるスキルを身につける。シューズの機能・特性を知り、パフォーマンスを発揮するための選び方・履き方を学ぶ。	一般社団法人 スリーバランス
コンディショニング Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	人体の構造や働きを理解し、その知識を元に基本的・応用的なアプローチ方法を学ぶ。スポーツトレーナーとして必要な身体的機能を回復・向上させるスキルを身につける。シューズの機能・特性を知り、パフォーマンスを発揮するための選び方・履き方を学ぶ。	一般社団法人 スリーバランス
審判法 Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	・審判を目指す上で必要となるスキル・実際の動き（それぞれの役割把握）・シチュエーション別での役割把握・ライセンス取得	全日本野球協会
審判法 Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	・審判を目指す上で必要となるスキル・実際の動き（それぞれの役割把握）・シチュエーション別での役割把握・ライセンス取得	全日本野球協会
NPB/OBトレーナー対策講座	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	・この講義では、アスレティックトレーナーとして必要な知識を習得し、野球現場でアスレティックトレーナーとして活動できるようになることを目標に、講義を進める。・「知っている」ではなく「出来る」をテーマに講義を展開する。	(株)A.T.NAGASHIMA

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)認定専門課程等の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
本校の教員研修に関する規程に基づき、野球に関する業界団体・競技団体等が主催する講習会、学会及び研修会への参加を促す。競技現場で求められる専門知識・技術と指導力の向上を図り、得られた知見を授業内容や学生指導の改善に反映する。

(2)研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	公認野球指導者　基礎Ⅰ　U-12認定講習会	連携企業等:	一般財団法人全日本野球協会
期間:	eラーニング受講(令和7年12月)	対象:	野球指導者
内容	指導力の向上と全日本野球協会における野球人口拡大とU-12のアマチュア選手強化・育成のための中長期戦略プランの情報と方法の共有を目的とする。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	公認野球指導者　基礎Ⅰ　U-15認定講習会	連携企業等:	一般財団法人全日本野球協会
期間:	eラーニング受講(令和7年12月)	対象:	野球指導者
内容	指導力の向上と全日本野球協会における野球人口拡大とU-15のアマチュア選手強化・育成のための短期戦略プランの情報と方法の共有を目的とする。		

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	ベースボールコーチングクリニック	連携企業等：	一般財団法人全日本野球協会
期間：	2027年１月23・24日	対象：	野球指導者
内容	野球指導や学会などの成果の適正情報を発言し野球指導者・連盟・医療者・科学者などが交流・研鑽することで、野球選手育成の質向上に寄与する。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	第8回都道府県審判指導研修会	連携企業等：	一般財団法人全日本野球協会
期間：	令和8年12月4日	対象：	モデルチーム
内容	毎年変更される野球競技の改定の伝達会。競技を指導する上でルールの熟知は必須であり、実技指導の際の、指導力向上の一つとして受講。（毎年継続して受講）		

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

○学校関係者評価

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
(1)教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
(2)学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3　単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4　学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得(資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。)についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
(3)学生の受入れ、学生支援	
1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2　自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
4　学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。 ※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている

(4)教育実施組織・教員	
1　教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けていない
3　教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1　教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けていない
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている

（3）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
安村　亮	ラックヘルスケア株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	業界委員
川上　晃司	スポーツインテリジェンス株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	企業委員
野柳　俊英	やなぎ整形外科クリニック	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	業界委員
中谷　功	なかたに鍼灸整骨院	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	業界委員
清行　康邦	公益社団法人　全日本鍼灸学会	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	学識有識者
萩原　嘉彦	ハギーコーポレーション	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	業界委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.riseisha.ac.jp/disclosure/		
公表時期	令和8年11月30日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.riseisha.ac.jp/		
公表時期	令和8年7月31日		

授業科目等の概要

	（文化・教養専門課程 競技スポーツ学科野球コース）							授業方法			場所		教員		
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数								企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ゼミ	スポーツを題材に実験・考察を行い、約5,000字のゼミ論文を作成する。	2・後	1		○		○		○		
2	○			指導法Ⅰ（野球）	野球の基礎と、指導者に求められる言動・マナー・スポーツマンシップを学ぶ。	1・前	1			○	○		○		
3	○			指導法Ⅱ（野球）	野球の基礎と、指導者に求められる言動・マナー・スポーツマンシップを学ぶ。	1・後	1			○	○		○		
4	○			指導法Ⅲ（野球）	野球の基礎と、指導者に求められる言動・マナー・スポーツマンシップを学ぶ。	2・前	1			○	○		○		
5	○			指導法Ⅳ（野球）	野球の基礎と、指導者に求められる言動・マナー・スポーツマンシップを学ぶ。	2・後	1			○	○		○		
6	○			スポーツ栄養学Ⅰ	食事と栄養の基礎を学び、日常生活や野球の現場への活用力を養う。	1・前	1	○			○			○	
7	○			スポーツ栄養学Ⅱ	競技力向上と体調管理に必要なスポーツ栄養を、現場の事例を交えて学ぶ。	1・後	1	○			○			○	
8	○			栄養アセスメント	栄養摂取状況を評価し、改善策の検討・討論・発表を通じて実践力を養う。	2・前	1	○			○			○	
9	○			スポーツコーチング論Ⅰ	日本スポーツ協会の教材を基に、指導者の基礎とコーチング技能を討論を交えて学ぶ。	1・後	1	○			○			○	
10	○			基礎実技Ⅰ（野球）	野球の基礎技術・体力・精神面を鍛え、主体性と社会性を養う。	1・通	4			○	○			○	
11	○			基礎実技Ⅱ（野球）	投球・打撃の基本を身につけ、自ら考えてプレーする力を養う。	1・通	4			○	○		○		
12	○			基礎実技Ⅲ（野球）	走塁・守備の基本を身につけ、自ら考えてプレーする力を養う。	1・通	4			○	○		○		

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
13	○			基礎実技Ⅳ（野球）	試合を有利に進める着眼点を学び、状況に応じて考え行動する力を養う。	1・通	4			○	○			○	
14	○			基礎実技Ⅴ（野球）	守備時のカウントやイニングに応じた準備と対応を、実技を通して学ぶ。	1・通	4			○	○		○		
15	○			基礎実技Ⅵ（野球）	攻守の基本を実戦練習で反復し、判断と技術の定着を図る。	1・通	4			○	○		○		
16	○			応用実技Ⅰ（野球）	各ポジションの役割と応用技術を学び、総合的な競技力を高める。	2・通	4			○	○		○		
17	○			応用実技Ⅱ（野球）	各ポジションの役割と応用技術を学び、総合的な競技力を高める。	2・通	4			○	○		○		
18	○			応用実技Ⅲ（野球）	各ポジションの役割と応用技術を学び、総合的な競技力を高める。	2・通	4			○	○			○	
19	○			応用実技Ⅳ（野球）	野手の技術と判断力を高め、投手は打者心理を踏まえた投球術を学ぶ。	2・通	4			○	○		○		
20	○			応用実技Ⅴ（野球）	野手の技術と判断力を高め、投手は走者心理を踏まえた投球術を学ぶ。	2・通	4			○	○		○		
21	○			応用実技Ⅵ（野球）	試合展開と状況判断を学び、投手・野手それぞれの対応力を高める。	2・通	4			○	○		○		
22	○			トレーニング（基礎）Ⅰ	自重・マシントレーニングの基礎を学び、野球向けの計画・実践・指導力を養う。	1・前	1	○		△	○		○		
23	○			トレーニング（基礎）Ⅱ	自重・マシントレーニングの基礎を学び、野球向けの計画・実践・指導力を養う。	1・後	1	○		△	○		○		
24	○			トレーニング（応用）Ⅰ	トレーニング理論を応用し、野球向けの計画・実践・指導法を身につける。	2・前	1	○		△	○		○		
25	○			トレーニング（応用）Ⅱ	目的に応じたトレーニングメニューを作成・実践し、指導法を学ぶ。	2・後	1	○		△	○		○		

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
26	○			コンディショニングⅠ	人体の構造・機能を理解し、身体のケア技術とシューズの選び方を学ぶ。	1・前	1		○		○			○	○
27	○			コンディショニングⅡ	人体の構造・機能を理解し、身体のケア技術とシューズの選び方を学ぶ。	1・後	1		○		○			○	○
28	○			コンディショニングⅢ	生活習慣や心理状態と身体の関係を理解し、コンディション管理の方法を学ぶ。	2・前	1		○		○			○	○
29	○			現場実習Ⅰ（2w）	校外で野球の練習・技術指導を実践し、計画・実施・振り返りを学ぶ。	1・通	3			○		○	○		
30	○			現場実習Ⅱ（2w）	校外で野球の練習・技術指導を実践し、計画・実施・振り返りを学ぶ。	2・通	3			○		○	○		
31	○			現場実習Ⅲ（2w）	校外で野球の練習・技術指導を実践し、計画・実施・振り返りを学ぶ。	1・後	3			○		○	○		
32	○			現場実習Ⅳ（2w）	校外で野球の練習・技術指導を実践し、計画・実施・振り返りを学ぶ。	2・後	3			○		○	○		
33	○			運営実習Ⅰ（2w）	野球大会の運営・記録・審判を実践し、外部評価を踏まえて学校教員が成績を判定する。	1・後	3			○		○	○		○
34	○			運営実習Ⅱ（2w）	野球大会の運営・記録・審判を実践し、外部評価を踏まえて学校教員が成績を判定する。	2・後	3			○		○	○		○
35			○	キャリアデザイン	自己分析を通じて職業適性を理解し、履歴書作成や面接に備える。	1・後	1	○			○			○	
36			○	ビジネス実務対策講座Ⅰ	ビジネス実務検定の対策授業。	2・前	1	○			○			○	
37			○	ビジネス実務対策講座Ⅱ	ビジネス実務検定の対策授業。	2・後	1	○			○			○	
38			○	ネイル検定対策講座Ⅰ	ネイルケア・アートの理論と実技を学び、ネイリスト技能検定3級合格を目指す。	1・通	2			○	○			○	
39			○	ネイル検定対策講座Ⅱ	ネイルケア・アートの理論と実技を学び、ジェルネイル検定初級合格を目指す。	2・通	2			○	○			○	

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
40			○	日本語表現Ⅰ	文章表現の基本を学び、小論文で自分の考えを伝える力を養う。	2・前	1	○			○			○	
41			○	日本語表現Ⅱ	文章表現の基本を学び、小論文で自分の考えを伝える力を養う。	2・後	1	○			○			○	
42			○	パソコン基礎Ⅰ	Word・Excelの基本操作を学ぶ。	1・前	1			○	○		○		
43			○	パソコン基礎Ⅱ	PowerPointとデザイン作成の基礎を学ぶ。	1・後	1			○	○		○		
44			○	パソコン応用Ⅰ	OfficeソフトやCanvaを活用し、メール対応、資料・デザイン作成、発表技術を学ぶ。	2・前	1			○	○		○		
45			○	パソコン応用Ⅱ	OfficeソフトやCanvaを活用し、メール対応、資料・デザイン作成、発表技術を学ぶ。	2・後	1			○	○		○		
46			○	スポーツ生理学Ⅰ	身体の構造・機能を学び、運動やトレーニング・リハビリとの関係を理解する。	1・前	1	○			○			○	
47			○	スポーツ生理学Ⅱ	筋肉・関節の機能など、運動に関わる身体の仕組みを学ぶ。	1・後	1	○			○			○	
48			○	スポーツメンタルⅠ	アスリートの心理とメンタルトレーニングを学び、競技力向上に生かす。	1・前	1	○			○		○		
49			○	スポーツメンタルⅡ	チームワークとコミュニケーションに必要な知識・技能を学ぶ。	1・後	1	○			○		○		
50			○	スポーツケアⅠ	爪の役割とケア方法を学び、競技力向上や健康管理への応用を考える。	1・前	1	○			○			○	○
51			○	スポーツケアⅡ	爪の役割とケア方法を学び、競技力向上や健康管理への応用を考える。	1・後	1	○			○			○	○
52			○	解剖学	骨・筋・靱帯・神経と関節運動の関係を学び、身体運動の基礎を理解する。	1・前	1	○			○		○		

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
53			○	バイオメカニクス	テニス・ソフトテニス・野球の動きを例に、運動と力の関係を学ぶ。	1・後	1	○			○		○		
54			○	スポーツ心理学	スポーツ心理学の理論と実践を学び、競技者・指導者の視点から現場で活用する。	1・前	1	○			○		○		
55			○	スポーツ医学	スポーツに関連する疾患・障害と応急処置、女性とスポーツの基礎を学ぶ。	1・前	1	○			○			○	
56			○	スポーツコーチング論Ⅱ	個人・チームの育成と運営計画、情報収集・マネジメントを学ぶ。	1・後	1	○			○			○	
57			○	トレーニング論	トレーニングによる筋・呼吸循環器の適応を、指導現場の事例とともに学ぶ。	1・前	1	○			○			○	
58			○	発育発達論	発育発達の身体・心理的特徴を学び、年代・性別に応じた運動指導を考える。	1・前	1	○			○			○	
59			○	スポーツマネジメント論	スポーツの歴史と文化的価値を学び、現代社会での役割を理解する。	1・後	1	○			○			○	
60			○	イベント運営法	スポーツイベントの運営方法を学ぶ。	1・後	1	○			○			○	
61			○	審判法Ⅰ	審判の役割・動作・状況別対応を実践し、資格取得に必要な技能を学ぶ。	1・通	2			○	○			○	○
62			○	審判法Ⅱ	審判の役割・動作・状況別対応を実践し、資格取得に必要な技能を学ぶ。	2・通	2			○	○			○	○
63			○	JATI-ATI 対策講座Ⅰ	JATI-ATI資格取得に向けた知識・技能を学ぶ。	2・前	1			○	○			○	○
64			○	JATI-ATI 対策講座Ⅱ	JATI-ATI資格取得に向けた知識・技能を学ぶ。	2・後	1			○	○			○	○
65			○	NPB/OB トレーナー対策講座	野球現場で活動するアスレティックトレーナーに必要な知識・実践力を養う。	2・通	4			○	○			○	○

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
66			○	公式記録員対策講座	JABA・WBSCの記録方式と野球規則を学び、大会で記録員業務を実践する。	2・通	4		○		○		○		○
67			○	ストレッチングⅠ	筋肉・骨・ツボの知識と相モデル実技を学び、全身リラクゼーション認定試験1つ星を目指す。	1・前	1			○	○			○	○
68			○	ストレッチングⅡ	筋肉・骨・ツボの知識と相モデル実技を学び、全身リラクゼーション認定試験1つ星を目指す。	1・後	1			○	○			○	○
69			○	ストレッチングⅢ	筋肉・骨・ツボの知識と相モデル実技を学び、全身リラクゼーション認定試験1つ星を目指す。	2・前	1			○	○			○	○
70			○	ストレッチングⅣ	筋肉・骨・ツボの知識と相モデル実技を学び、全身リラクゼーション認定試験1つ星を目指す。	2・後	1			○	○			○	○
71			○	動きつくり運動（実技）	効果的な身体活動を実践的に学ぶ。	2・前	1			○	○			○	
72			○	用具管理	スポーツ用具の管理方法を実践的に学ぶ。	1・後	1			○	○		○		
73			○	海外研修（2w）	海外のトップアスリートを観察し、自身のプレーや指導に生かす。	2・後	3			○		○	○		
合計					73 科目			133 単位							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	規定の出席率をみたし、指定された単位数を修得し、卒業判定会議で審査し、校長が認定したものとする。	1学年の学期区分	2 期
履修方法：	学生は、学則に定める教育課程の所定の科目を履修し、所定の単位を修得しなければ、進級もしくは卒業できない。	1学期の授業期間	15 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。